

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200028		
法人名	特定非営利活動法人 だいにの花		
事業所名	NPOグループホームだいにの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成21年11月3日	評価結果市町村受理日	平成22年1月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190200028&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190200028&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた中での生活が送れます。  
地域の方との交流もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

だいにの花はひとひらづつ色が違い、日毎に色を変えていく。利用者一人ひとりの個性や思いを大切にしながら一緒に生活するという思いを受け止めて、管理者や職員は日々の支援を行い、利用者の思いや希望を引き出している。介護支援専門員は経験や研修の知識を活かし、より良い暮らしの持続に取り組み、利用者や家族・職員と関わっている。敷地内建物の一部を、地域住民のふれあい場所として解放し、利用者を巻き込んで様々な事業が行なわれ、市のカラオケ大会への参加へと展開し、利用者の生きがいになっている。地域の方のビニールハウスにでかけ、野菜の成長を喜び、収穫や草取りを手伝うこともあり、地域の中での暮らしを実践しつつある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に書いてあり、目に付くので職員全員が理解している	運営の方針として家庭的な環境と地域住民との交流を定め、職員の採用時には理念を説明している。理念を玄関に貼り、ミーティングで話し合い、日常的な共有に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方と交流を持つよう、レクレーションや行事を行っている 年間を通して大きな行事がある時は、地域の方に参加をして頂いている 学校行事などにも参加をさせて頂いている	敷地内建物の一部を地域交流の場として開放し、地域婦人部の模擬喫茶・カラオケ教室・生け花教室等の活動が利用者を巻き込んで大きな輪となっている。保育園児の訪問や中学校の卒業式への招待があり、ほうば寿司を婦人部の方と一緒に作って食べるの交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	数ヶ月に一度は運営推進会議を開き伝えたり、行事を通じて交流はあり、入居者に対しての理解等はあるが、「認知症」の方に対しての支援の方法などはまだまだ説明不足な点が多くある		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングの時に報告を受け、参考にしてている	会議では年間行事や地域とのふれあい、つながりを強化したい事や、外部評価の意義と評価の結果を報告している。また、議事録を作成し、ミーティング時に職員と話し合い、要望等の対処を検討している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市福祉課職員、民生委員等も運営推進会議に参加をして頂き、GHの取り組みを連絡、報告している あまり活発な意見は聞けないが、出た意見はできるだけサービス向上に繋げられるように努力している	社協の施設見学に応じ、感想を聞いている。また、高齢福祉課に制度上解らない点を聞いたり、担当職員や介護相談員の定期的な訪問があり、市が事業所職員の仕事の過重を考慮して、提出日等の柔軟な対応がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけず、外出をしたい方は一緒に外出しているが、言葉での入居者への動きの制限をしてしまうことがあり、今後、接遇等で見直しが必要	早朝の散歩を好む利用者には、地域のボランティアと職員の早朝出勤で対応し、利用者の行動に「待って」や「どこ行くの」等の声かけも行動を制限する拘束に当たるとの認識を持っている。安全と拘束を比類しながら、何処まで見守り出来るか、職員で話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないようにミーティング等で話し合い、職員がそれぞれ気をつけて介護にあたっているが、職員の言葉が強いこともあり、身体拘束と同じく、虐待防止法などの勉強もこれから更にしていくようにしたい		

NPOグループホーム だいにんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者に聞き、必要である時は活用するようにしているが、勉強する機会がなかなかないため、管理者のみが把握している部分がある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族とよく話し合い、理解をいただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に必ず家族に知らせ参加して頂き意見を聞いて職員に伝えている 会議で家族からの意見等はミーティングで話し合っている	運営推進会議に参加出来ない家族には、議事録を送付し、家族の意見・要望・対応を知らせている。又家族参加の行事を多くし意見を聞く機会を作っている。介護記録は、家族が読んで利用者の心身の状況が理解出来る様に、細かく丁寧に記入する様に指導している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、職員と話しあっている	事業所内でミーティングを行い、利用者や家族を考えて支援方法を話し合い、記録に残している。経験年数や性格等で発言の少ない職員も見受けられる。	職員の新鮮な目と耳で捉えた気づきを発言につなげ、運営に反映させることで更なる質の向上に活かして頂きたい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や勤務状況に合わせ賞与などに反映されている ミーティング等で意見を聞き、職場環境の改善、規則の改善などに努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の知らせは必ず職員が目を通すようになっており、働いている時にも助言を受けている 職務中において、気付いた点などを指導したりしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学もあり、他の施設のやり方などの話も聞くことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ケアマネが入居前に本人と会い、本人の情報を職員に伝えている 入居初期には本人の話をもよく聞いて、安心して頂けるまで話し合っているが、家族の意見中心になってしまうことが多い		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と本人から話しを聞き、希望・要望を把握し、職員に伝えている 家族の希望・要望はできるだけ良い結果につながるようミーティング等で話し合い、実践に繋げている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を職員で話し、管理者・ケアマネに伝えている グループホームでできるサービスの中から選択してもらうことに努め、在宅生活を含めたプランも提案したり、ホームの中でシミュレーションをしたりしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を気持ちよく過ごしてもらえるよう心がける ケアをするばかりではなく、職員が入居者に教えてもらう姿勢をとっている 介護・ケアをしているという姿勢ではなく、共に生活をしているという姿勢で関係作りを築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が望む気持ちを大切にしている 家族と共に本人を支えながら職員も家族と同じ思いで支援している 面会の際には、職員と家族だけで話すのではなく、入居者と家族がゆっくりと話することができる時間を作るようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中に馴染みのある話題を提供している 本人の家族だけではなく、友人等もいつでも訪ねてくれるようにしているが、多くは家族の面会のみとなっているのが残念	利用者の生活歴を大切にし、自宅の梅を収穫に行き事業所で梅干を作ったり、留守にしている自宅の様子を見に行く支援を行っている。遺族の会や戦友会にでかけたり、訪問を受ける事もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係をよく見ながらトラブルを避け、孤立する利用者にも声かけをしている お茶、食事の時は職員も一緒に会話を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも管理者・ケアマネが面会に行っている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の体調や生活パターンを知り、合わせられるように職員間で話し合っている 1日の関わりの中で言葉や表情などで様子を見ている	一人が歌うと他の利用者が合唱するのを聞き、歌詞を大きく書いて壁に貼っている。又他の家族の来訪を見て、落ち込む利用者とは自宅近くへ車で出掛けたり、誕生日プレゼントは均一でなく、利用者本意の品を選んで喜びにつなぐなど、関わりの中で意向の把握をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴など、どの職員も知ることができるよう資料が作成され、職員のみが閲覧できるようになっている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化をその都度、介護記録に残し、職員が目を通すようになっている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には職員も立ち会い、話し合って作成される	介護支援専門員が担当者会議やミーティングを行なって介護計画を作成し、見直しも適宜行っている。作成した介護計画は家族と会い、説明している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんなことをしたのか、どんな会話をしたのかなど細かく依記録に残し、職員同士伝えあっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望・要望に添えるよう職員が努力している 家族が通院にいけない時には事業所が行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケ教室・訪問理美容、交流センターでの喫茶等、地域資源は多くあるが、施設内に来てもらえる資源のみを利用している。野菜等も地元の無農薬産を提供して頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科などの往診も定期的であり、入居者の様子も伝えている 入居後も主治医を変えずに、本人が安心できる医療機関にて受診をしている	連携医は月2回、歯科医は毎週1回の往診がある。入居前のかかりつけ医を受診する利用者は家族が付き添うが、医師・家族・事業所の連携がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃のケアの中で気付いたことは必ず、管理者・ケアマネ・看護師に伝え、受診の有無を判断している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時の状況を介護記録にて伝えたり、入院後の様子も知るよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に終末期のことは家族と話し合い、GHでどこまで対応できるか伝えている	重度化した場合の対応と方針は入居時に家族に説明し理解を得ている。利用者の状況を見ながら、家族と相談し出来る限りの介護支援を行い、毎日の医療行為が必要になった時は入院をお願いし、職員や協力医も方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者が急変した時や事故の時の対応の仕方を折々話し合っって知っていくよう努める		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を受けたり防火対策の講習を受けている職員がいる	避難訓練を行ない、防火対策講習を3人の職員が受講している。来春に消防署の協力を得て夜間訓練を行ない、スプリンクラーの設置の予定である。食料の備蓄もされているが、災害対策について全職員に周知徹底がされていない。	災害時の対応について全職員と十分に話し合い、マニュアルの周知徹底が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するよう、言葉を選ぶよう気をつけているが、時に職員という言葉がとても強いことがある 本人の気持ちを大切に考えてさり気ない声かけ等を心がけてるが、命令口調になっていることや、職員都合の言葉が多くある	事業所名「だいにんの花」は、一つ一つ色が違う花弁が集まって一つの花になっている。利用者一人ひとりの個性を大事にする思いで名づけ、管理者や職員はその思いを大切にしている。日々の支援の中で職員の言葉が不適切な時は管理者が注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを聞き出す会話を心がけて希望を聞き、伝えやすいよう働きかける 職員の決めたことを押しつけてしまっていることが多い		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先してしまいがちにならないよう職員同士助け合い入居者の気持ちに添うよう努力しているが、後から思い返すと職員都合が目立つことが多い 本人のペースに合わせる事がなかなかできていない		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に任せるのではなく、職員が声かけをし、季節にあった服装を心がける その際、一緒に考え、外出時の服装などを決めている トイレ利用後等にも、身だしなみを整えるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みなどを知り、献立に活かし準備など手助けをお願いしたりする時間を作る	近隣農家から野菜提供があり、旬の野菜を調理している。食前に嚥下体操をして誤嚥予防をし、提携歯科医に義歯の調整を受け、自分で食べる食事を楽しんでいる。利用者の誕生日には利用者の好物を、職員の誕生日には職員の好物を献立にし、喜びを共有している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量など記録に残し、職員が変わってもわかるようにしている 最初の盛りつけ時に量を実際に見て頂いて、加減をしているが、多くを食べ過ぎて、栄養過多の傾向にあるので、見直しをしたい		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夜と食後に口腔ケアを声かけをしながらしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、いつトイレを利用したかを知り、排泄のタイミングを知り、自立を目指して、声かけをして支援している 失敗をしたことで羞恥心を感じないような声かけを心がけ、支援をしている	排泄パターンを把握し、2時間毎に誘導している。季節や状態によって変わる時は、ミーティングや申し送りで職員は共有をしている。また新しく入居した利用者は2～3ヶ月様子を見て排泄パターンを把握している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表やトイレの利用後の確認で便の様子を知り、便秘予防のジュースを飲んで頂く薬をできるだけ使わない自然排便を心がけ、ジュースの他に散歩、運動、食事の内容を見直したりしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね2日に1回の入居者と職員の1人ずつでの入浴で、ゆっくり午前中から入って頂いているが、ほとんどが職員の都合で決まっている	利用者の希望に添い、午前中から夜8時までの入浴が可能である。長湯を好む人・話好きな人・歌が好きな人等職員が個別対応をしている。下呂温泉での入浴の希望にも対応し、支援を行った。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調に合わせて居室でいつでも休めるように心がけているが、昼間に寝ている時間が長い方には起きていてもらうようにしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が増える時など看護師より伝えてもらっている薬剤情報などを活用して、職員全員にわかるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事など、職員が知り、楽しめるようにレクレーションを考えているが、職員がひとりでやってしまうことが多い。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を考える時、入居者の希望を聞いたり、季節感のある場所を選んでいる	年間を通じて、頻繁に外出の機会を作っている。桜や菖蒲の花見・苺狩りや虫見物等近隣の場所や買い物出来る場所を選んでいる。家族と職員が付き添い利用者が楽しめるよう、又トイレに困らぬよう見守りながらでかしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個人的に所持することで、紛失が多くあり、紛失した時の不穏を発生させないために職員間で話し合った結果、個人でのお金は所持を控えて頂くことにし、持って見える方には家族に返している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話を使用することを家族に伝え、その時には職員が対応し、かけてもらっている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をし、常に清潔に心がける 季節にあった部屋の温度にも気を配っている 廊下に長いすを置くことで、ひとりで過ごしたり、中の言い方同士で過ごしたりとくつろぐスペースがある	明るいリビングは台所が一体化され、食後のんびりと長椅子にもたれる利用者や仲良し同士食卓を囲んで語りあう光景が見受けられる。廊下やリビングの壁に利用者の作ったちぎり絵や写経、保育園児との楽しい交流写真を飾り微笑ましい空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士と一緒に座れる椅子などがある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使ってた見えたタンスなど家具を持ってきて頂いて自宅にいる時のように部屋作りをしている 写真、思い出の品なども置くようにしている	使い慣れた家具(筆筒・ベッド・テレビ)を持ち込み自作の絵や家族写真を飾っている。明るい光の差し込む居室のベランダに物干しがあり、利用者が洗濯物を干している。絵や写経をする利用者は机を持ち込んで、作品作りを楽しんでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど、安全に歩行できるようになっている 居室にも表札をつけている その他、必要な目印、表示なども付けたりしている		